

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0572210110		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 茜		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字街道東222番地6		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年12月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・住宅地にありながら緑にかこまれている。広い敷地には、花壇や畑があり自己のライフスタイルをいかせるようにしている。地域の方や利用者、職員が協力し畑に野菜を育て、採れたての野菜を味わうのも楽しみになっています。また、敷地内に果樹(梅・栗・柿・無花果等)もあり、秋になると各ホームで収穫を楽しむ交流を図っています。  
 ・ドライブによく行き、お花見、紅葉時期には、お弁当を持って出かけ、外に出ることで季節感を感じ、途中買い物や甘味を楽しんでいます。一緒に生活を共にすることで信頼関係を築いています。  
 ・当事業所で開催するお花見、カラオケ親睦会、合同運動会は利用者や家族、地域のボランティアと職員の交流を図り親睦を深めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職場のコミュニケーションが取れていて、風通しの良い職場である。記録等が整っており、日々の業務を丁寧に行っているのが感じられる。外出支援を沢山行うことによって、利用者の五感を刺激している。事業所内は穏やかな雰囲気に入れられ、ホーム全体が利用者の心安らぐ場所になっていると感じることができる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念は玄関と事務所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。ホーム独自の目標も掲げて職員一同日々取り組んでいる。	企業理念以外に、職員で話し合い「楽しく・笑顔で・生き生きと」をモットーに、職員は常に「楽しく〇〇しましょう」と考えながら日々実践し、利用者に対応する際は意識して行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの畑は、地域の方の協力を頂きながら育て収穫をしている。 避難訓練では、地域の方の参加を頂いている。 地元の祭りでは、ホーム玄関前に神輿や子供たちの踊りが披露され地域との交流を図っている。	年2回「茜便り」を作成し、地域住民に配布し、普段の生活や活動状況、行事等を報告したりと、地域住民との連携を密にするための努力が見られる。ホームの畑を地域の方が機械で耕してくれたり、良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議では、認知症ケアについて研修報告をして、情報発信をしている。 また、ホームの各種行事の際には、地域の方もボランティアとして参加してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。茜の利用者状況、行事、活動状況の報告をして、皆さんから助言・要望を聴きサービスの質の向上に努めている。	地域包括支援センター、民生委員、町内会長、家族等を構成員とし、実効性のある意見が出されていることが記録から確認できる。議事録も毎回家族に送付し、振込詐欺や認知症等について話し合われた内容を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接訪問したり、電話、Eメールで情報を伝えている。担当者が2ヶ月に1回会議に出席頂き、協力関係を築いている。	権利擁護や生活保護を利用している方もおり、社会福祉協議会や福祉事務所の方の訪問もある。会議には必ず参加してもらえよう、日程を調整する等、関係を密にする努力がみられる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が禁止となる行為を理解している。 玄関施錠も夜間以外はしていない。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃より身体拘束をしないケアを行っており、マニュアル等も完備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会で学ぶ機会があり、虐待が見過ごされることのないよう注意をはらい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にも参加して学ぶ機会を設けている。 地域福祉権利擁護事業を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の際は十分な説明を行い理解・納得をした上で捺印を押している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内数箇所に「意見箱」を設けて意見等があった場合は職員間で共有し、業務に反映させている。 苦情についても、家族が納得のいく解決に努めている。	意見要望はいつでも受けられる体制にしてある。投書箱を設置してあるが、実際に利用されることは少ないため、面会時等にできるだけ聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案が管理者会議で報告され、代表者は真摯に受け止め運営に反映されている。	カンファレンス時に職員から活発に案が出ている。理由を明確にし、シャワーチェアや加湿器、エアコン等、備品の整備が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の努力や実績、勤務状況を把握し、職員個々が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年度研修計画を立て、事業所内外の研修に参加し職員のスキルアップに繋げている。 資格取得についても積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・管理者・職員が研修に参加し交流を深めネットワークづくりはできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用に至るまでに、本人の困っている事、不安な事、要望等を聴き安心して頂けるよう職員全員で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者や家族に施設を見学して頂き、安心して利用できるよう努めている。 困っている事、不安な事や要望を良く聴き安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの出来る事、したい事を生活の中に見つけ一緒にやっている。 暮らしを共にする者同士信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には家族の方にも参加お願いをしている。いつでもホームに立ち寄れる雰囲気作りをしている。 本人、家族、職員が一緒に談話し支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで利用していた床屋で髪をカットしている。行きつけの店で買い物した時はサービスしてもらおう事もある。 馴染みの関係が途切れないよう支援している。	ホームに訪れる訪問客にはおもてなしを行い、馴染みの方との関係の継続に努力している。 家族や友人等の訪問も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう常に目配り、気配り、会話に努めている。 日中一人で部屋にいる事のないようレクリエーションや本人の出来る事を行うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、施設の行事に招待し、必要とされるときは相談に応じそれまでの関係を断ち切らないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握し、ホーム生活の中に本人の希望・意向を取り入れていくよう努めている。	日常のケアの中で、丁寧な傾聴や表情の読み取りを心掛け、要望を予測して関わっている。質問を2択にして答えやすく工夫したり、うまく伝わらない時や、読み取れない時には他の職員と情報を共有しながら察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人が使い慣れた食器・衣類・身の回りの物を持ってきて頂き、それまでの生活環境・生き甲斐が維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握に努め調理下準備、洗濯物たたみ、花壇や畑の手入れ等本人の有する力が発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聴き、介護計画見直し時期には、担当者会議を開き援助計画を作成、月1回のケアカンファレンス、3ヶ月に1回のモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	担当制としており、現在の計画を見て、モニタリング・アセスメントを行い、評価及び担当者会議を行いながら、家族の意見も取り入れ、今後について話し合い、計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は個別に記録し、申し送り等で職員全員が情報を共有出来るようにしている。月に1回ケアカンファレンスを開催し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会で支援している、地域福祉権利擁護を利用している方がいる。 このことで豊かな暮らしを楽しむ事ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を決めている。医療機関と関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。	遠方の病院でも、利用者個々に対応していることが確認できる。基本的に職員が対応し、検査結果や入院時は家族に来てもらっている。各受診結果は家族と共有し、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に利用者の情報や気づきについて相談し、日常の健康管理についてアドバイスをいただき、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を密にし、情報交換に応じており、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応、終末期の対応について「医療連携体制の要件」の書面で説明をし同意書を交わしている。早い段階から利用者や家族と話し合い、ホームで出来るだけの支援をしている。	前例は無いが、入居時の聞き取りにて看取りを希望している方はいる。系列施設には事例があり、マニュアルも完備されている。訪問看護も月2回訪問あり、支援できる体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え救命講習を受講している。全員応急手当や初期対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火訓練を実施しており、利用者がスムーズに避難できるよう心掛けている。 また、地域の方の協力も頂いている。	訓練時は地域住民の参加も有り、避難誘導等、役割もできている。避難経路にスロープも取付け、職員の安心へも配慮している。災害対策として、発電機の用意やLEDランタン・ラジオ等、備品の整備も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの支援を心掛け、利用者の人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけ、対応をしている。	気が大事と考えていて、接遇の勉強会に参加したり、職員会議にて「こういう事はやめましょう」等、尊厳を保てるよう配慮している。	記録が整備されていることは確認できたが、ホールにて記録作成しており、来訪者等の目に入らないような配慮に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聴き入れ、日常生活の中で表現でき、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて生活を保ち、希望を取り入れた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	季節に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。 利用者が馴染みの理容・美容院などを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜を活かした献立や嗜好に合わせて一人ひとりメニューを換えている。 また、調理の準備・食事・片づけを職員と一緒にやっている。	訪問時は、だまこ作りや、もやしのひげ取り等、利用者と一緒に作っている姿が確認できた。食事準備や後片づけの中で利用者ができることは一緒に手伝っている。食事の際はさりげなく援助しながら和やかな雰囲気ですぐに食事ができるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握している。 利用者の状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。援助の必要な利用者には職員と一緒に、義歯の消毒は専用の薬剤を使って週3回洗浄し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗や不安なく排泄できるよう、プライバシーに配慮し自立に向けた支援に努めている。	排泄チェック表を使用し、利用者個々の排便等の有無を把握し、トイレ誘導した結果、失敗することが無くなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防するために食事の工夫や運動、水分補給に努めている。解消されない場合は、医師に相談し薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日バイタル測定を行い健康状態を把握し、利用者の希望に合わせて入浴を行っている。入浴を楽しめるよう入浴剤を入れ替え工夫している。	入浴日は決まっておらず、利用者の希望に合わせて毎日対応している。利用者個々に対応する等、ゆっくりと入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう日中の過ごし方の工夫をしている。休息も安心して眠れる支援をしている。夜間眠れない方は医師に相談し処方にて服薬を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースには薬名、効能について記載している。薬ファイルには一人ひとりの薬名、効能、働き、副作用について記載されており、職員は薬の目的副作用等について理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の思いや希望を尊重し、できる範囲での役割を持ってもらい、利用者の生活歴を活かした支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者の要望に添って近隣の散歩やドライブは日常的に行っている。理美容院、買い物等の外出も支援している。花見、運動会、カラオケたんぽ会等は合同行事で地域、家族の方に協力して頂き楽しんでいる。	様々な場所へ外出支援している。遠くまで行かなくても、天気の良い日は散歩したり、ベランダではお茶を飲みながら歌を歌ったりと良い気分転換になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の了解を得て、負担にならない程度のお金を財布に入れ所持している。 また、管理のできない利用者には、買い物時お金を渡して払ってもらうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が入った時は取り次いでいる。 電話をかけたいたとの希望があればいつでも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は木をふんだんに使用し、落ち着いた色の壁紙を使用している。廊下には天窓が設置され明かりを取り入れる工夫もなされている。玄関前には空気清浄機を置き不快を取り除く配慮をしている。台所からホールが見渡せる作りとなっていて生活感を感じてもらえる。 室内の温度を一定に保つよう整備されている。	利用者が作った飾り等、きれいに飾り付けされている。1ヶ月に1回、当番制で模様替えされており、季節感のある空間作りである。午前中は利用者がホールの馴染みの場所で思い思いにゆっくり過ごす光景が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールにはソファが設置されており、利用者同士又は職員と一緒にくつろぎながら過ごす事ができる。 また、思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの食器や箸を持ってきてもらい食事をしている。 寝具類や衣類など今まで使用していた物を持ってきて頂き、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	シンプルな部屋や写真がたくさん飾られている部屋等、利用者個々の個性が感じられ、これまでの生活の延長であってほしいとの事業所の思いが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所が分からなくなる利用者のため、場所の表示をして混乱や失敗のないよう声かけ見守りして、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		